

令和6年度 算数科実践・研究計画

部 員	○伊藤 智美、猿田 千穂子、井谷 紀子
-----	---------------------

研究テーマ
個々の問いを基に、主体的・協働的に学びをつなぎ、数学のよさを見いだしていく子どもを育む学び

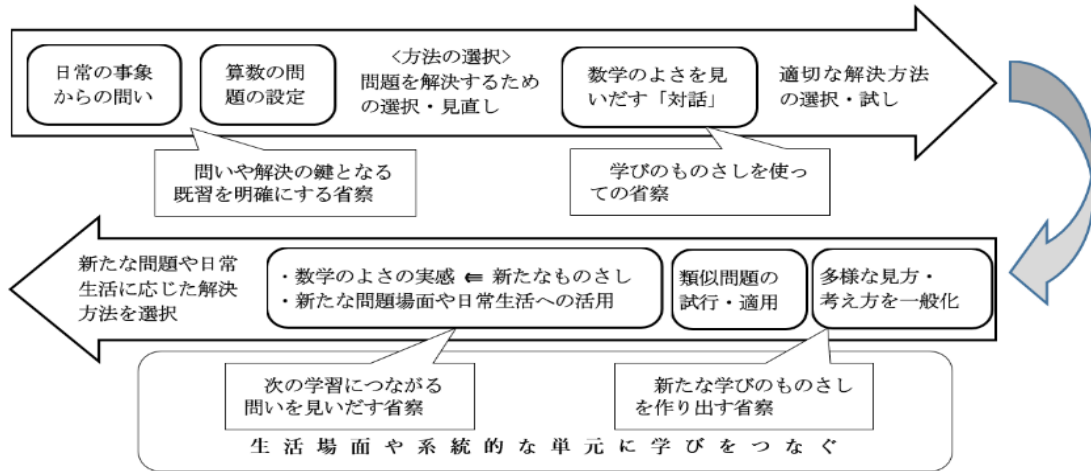
1 研究テーマについて

算数科では、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けることや、簡潔・明瞭・的確に表す力、統合的・発展的に考察する力、学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うことを目標としている。前年度、子どもたちは、生活の中に存在する算数の事象から新たな疑問を見付けたり、特別活動や他教科の学習から発展して課題を設定したりした。そこから自分に合う課題解決方法を選択したり、試したりすることで、粘り強く学びに向かいながら主体的に「学びのものさし」を更新する姿が見られた。しかし、解決の方法を説明したり自分の学びを価値付けたりする段階で、数学的な表現を使って筋道を立てて説明することに課題が見られた。

よりよく問題解決する姿を引き出すためには、1単位時間の振り返りや自分自身の学びをじっくり見つめる時間の確保、表現する場の工夫が考えられ、単元構成や1単位時間の授業を教師がどのようにコーディネートしていくかが大切になる。これらを基に、主体的・協働的に数学のよさを見いだしていく姿を目指し、実践・研究に取り組んでいく。

算数科で目指す自律した子どもの姿

- ・「仲間との対話」をもとに試行錯誤し解決する過程で、考えを修正したり再構築したりしながら、自ら進んで数学的な概念を獲得し、自分の学びを自分の言葉で表現していく姿
- ・獲得した新しい知識や方法等を次の学習や生活の中で活用し理解を深める姿



図：算数科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

獲得した数学的概念や自分の学びを自分の言葉で表現する姿を引き出す授業デザイン

- 自分の学びを相手に分かりやすく伝えながら価値付けていくための活動の場を設定する。
 - ・学習内容を生かした問題作りを行い、自分が問題を作った意図や解決方法などを伝える場を設定する。
- 自分の学びを表現する姿を引き出すための単元や授業の構成を工夫する。
 - ・自分自身の学びをじっくり見つめ、学びのつながりを自覚しながら、数学的な表現を用いて問題解決することができるように、複数の単元のつながりを重視した授業を構成する。